強いブランド企業“SHARP”の早期確立に向けて

シャープの歩みの詳細はこちらをご参照ください。
https://corporate.jp.sharp/info/history/

経営理念・経営信条

シャープの創業者 早川徳次の言葉の一つに「他社がまねするような商品をつくれ」があります。この言葉には、次の時代のニーズをいち早くかたちにした“モノづくり”により、社会に貢献し、信頼される企業を目指すという早川徳次の経営の考え方が凝縮されています。

シャープは、1973年にこの創業の精神を「経営理念」「経営信条」として明文化しました。さらに、2016年には、早川創業者の「誠意と創意」の精神を、これからも変わらないシャープの“原点”として受け継ぎ、オリジナリティ溢れる新たな価値を提供し続けることを世界中のお客様と約束する言葉として、新コーポレート宣言“Be Original.”を制定しました。

シャープは、今後も引き続き、「経営理念」「経営信条」を体現し続けることで、社会の発展に貢献していきたいと考えています。

創業者 早川徳次

経営理念

いたずらに規模のみを追わず、
誠意と独自の技術をもって、
広く世界の文化と福祉の向上に貢献する。
会社に働く人々の能力開発と
生活福祉の向上に努め、
会社の発展と一人一人の
幸せとの一致をはかる。
株主、取引先をはじめ、
全ての協力者との相互繁栄を期す。

経営信条

二意専心
誠意と創意

この二意に溢れる仕事こそ、人々に心からの満足と
喜びをもたらし真に社会への貢献となる。

誠意は人の道なり、すべての仕事にまごころを
和は力なり、共に信じて結束を
礼儀は美なり、互いに感謝と尊敬を
創意は進歩なり、常に工夫と改善を
勇気は生き甲斐の源なり、進んで取り組め困難に

目指す方向性 ― 強いブランド企業“SHARP”の早期確立 ―

シャープでは、これまでに蓄積してきた特長技術や革新的なデバイスを融合することで、シャープならではのハードウェアやサービス、ソリューションを社会に提供し、様々な社会課題の解決に取り組んでいます。

シャープには、冷蔵庫、太陽電池、デジタル複合機、パソコン、テレビ、携帯電話機等のブランド事業と、ディスプレイモジュール、カメラモジュール等のデバイス事業があります。

ブランド事業では、海外事業の拡大や高付加価値製品の創出に継続的に取り組み、グローバルにシャープブランドを強化していきます。

一方、デバイス事業では、他社との協業を梃子に競争力を高めながら、ブランド事業の優位性を支える特長デバイスの創出やOne SHARPでの販売拡大に取り組んでいきます。

また、同時に、“Be a Game Changer” を実現する革新技術/革新デバイスの開発を進め、新規事業の創出も加速していきます。

こうした取り組みにより、ブランド事業を主軸とした事業構造を構築し、人や社会に寄り添い、常に新たな価値を提供し続ける、強いブランド企業“SHARP”を早期に確立したいと考えています。

事業変革を加速する新たな事業推進体制の構築

シャープは、事業変革のさらなる加速に向け、事業推進体制の見直しを行いました。

注力領域の明確化及び事業間シナジーの最大化を狙いに、事業グループの体制を「スマートライフ&エナジー事業」「スマートオフィス事業」「ユニバーサルネットワーク事業」の3つのブランド事業と、「ディスプレイデバイス事業」「エレクトロニックデバイス事業」の2つのデバイス事業に再編しました。

また、「インキュベーションコミッティ」「イノベーションコミッティ」を新設して、最先端のAIやロボティクス等、技術力の強化を図っています。

加えて、各事業グループ傘下に新規事業を専門に担う組織を設置しました。今後はこの組織が中心となって、将来の成長の柱となる事業の早期立ち上げに取り組んでいきます。

具体的には、「スマートライフ&エナジー事業」では、食・水・環境、ヘルスケア、B2B、次世代型太陽電池、「スマートオフィス事業」では、MFP戦略商品やAI活用ソリューション、「ユニバーサルネットワーク事業」では、XRやローカル5G/プレ6G等の取り組みを強化していきます。

強いブランド企業“SHARP”の早期確立に向けて

事業変革を加速する新たな事業推進体制

ブランド事業

デバイス事業

R&D

強いブランド企業“SHARP”の早期確立に向けて

最新の決算情報は、下記にてご覧いただけます。
https://corporate.jp.sharp/ir/library/financial/

2023年度の取り組み

取り組み方針

2023年度は、コロナ特需の反動や世界的なインフレ、エネルギーコストの高止まり、地政学問題等の影響により、昨年度に引き続き、全体的に需要が低調に推移する見通しです。

但し、カーボンニュートラルやデジタルトランスフォーメーション関連分野などについては、堅調な需要が見込まれます。また、半導体不足や原材料価格の高騰、物流コストの上昇等のサプライチェーンの混乱による影響については、足元では緩和傾向にあるものの、今後も不透明な状況が継続する見通しです。

こうした環境下、2023年度の年間黒字達成に向け、各事業の抜本的な見直しを行うとともに、高付加価値商材/サービスの展開や新規商材の創出、海外事業の強化に取り組むなど、全社一丸となって取り組んでいきます。

さらに、こうした開源節流、即ち、新商品/新規市場/新規事業への展開による事業拡大（開源）及びより筋肉質な経営体質の構築（節流）を徹底の上、「ブランド事業を主軸とした事業構造の構築」の取り組みを推進していきます。

事業ごとの主な取り組み

	ブランド事業			デバイス事業	
	スマートライフ&エナジー事業	スマートオフィス事業	ユニバーサルネットワーク事業	ディスプレイデバイス事業	エレクトロニックデバイス事業
2023年度の主な取り組み	**白物家電** **新規独自特長商品やソリューションの創出と海外事業の拡大** ● 付加価値商品のシェア拡大 ● PCI搭載新商材の創出及びB2B開拓 ● 日本/米国スマートキッチンの拡大 ● ASEAN事業の高付加価値化 ● インドネシア エアコン新工場生産モデルの拡販 **エネルギーソリューション** **堅調な再エネ導入需要の獲得** ● 住宅用PV/蓄電池の販売拡大 ● アジアにおける大型発電案件の獲得	**ビジネスソリューション** **ソリューション事業の強化、B2Bディスプレイ事業の収益性改善** ● スマートオフィスの販売拡大 ● MFP事業のラインアップ拡充、商品力強化 ● デジタルイメージングソリューション事業のグローバル拡大 **PC** **国内B2B事業の強化とソリューション事業の拡大** ● 国内B2B向け新商材の投入 ● PCマネジメントサービスの拡大 ● 北米/アジア/オセアニア地域への集中展開	**TVシステム** **商品力の強化及びサプライチェーン改革による収益性改善** ● XLEDのグローバル販売拡大 ● 高付加価値ラインアップの拡充 ● 生産工場の競争力強化及びODMの有効活用 **通信** **スマホ事業のブランド力強化、非スマホ事業の拡大** ● ハイエンド/ミドルレンジ端末構成比の向上 ● ルーター等のワイヤレス新商材の販売拡大	**中小型パネル** **中型パネル事業拡大、工場稼働の最大化/最適化** ● VR向け事業の拡大 ● 車載向けパネルの販売拡大 ● エントリーPC等の汎用モデルの採算改善 **大型パネル** **収益性改善を最優先とした事業運営** ● パネル価格を睨んだ生産・販売活動の展開 ● カテゴリーシフトの推進	**カメラモジュール** **新規事業/新規顧客の開拓** ● XR市場向けデバイスの販売拡大 ● 既存事業の収益構造の改善 **センサー/半導体** **新規分野の開拓加速** ● バイタルセンシングデバイスの販売拡大 ● CMOSイメージセンサーの用途展開
シャープ（株）	●スマートアプライアンス&ソリューション事業	●スマートビジネスソリューション事業	●TV システム事業 ●通信事業		
子会社	●シャープエネルギーソリューション（株） ●（株）SHARP COCORO LIFE	●Dynabook（株）		●シャープディスプレイテクノロジー（株） ●堺ディスプレイプロダクト（株）	●シャープセンシングテクノロジー（株） ●シャープセミコンダクターイノベーション（株） ●シャープ福山レーザー（株）

※ 事業ごとの取り組みは、「経営説明会」（2023年6月27日）の資料も合わせてご覧ください。
https://corporate.jp.sharp/ir/event/shareholder_meeting/